

【大 賞】

熊本県 「水土里ネット菊池市」 歴史継承プロモーター

I 水土里ネットの概要

1. 水土里ネットの概要

- ・水土里ネット名： 菊池市
- ・役職員数：役員 9 名、職員：常勤 3 名、非常勤 0 名
- ・組合員数： 2,693 名
- ・受益面積： 2,581 ha（水田 1,741ha、畑 840ha）

2. 地域の特徴

菊池市は、熊本県の北部に位置する人口約5万人の農業が盛んな内陸の都市である。平成17年、平成の大合併により旧菊池市と周辺の3町村が合併して現在の市域となった。市内を流れる菊池川の源流である菊池溪谷は、日本名水百選にも選ばれており、夏でも平均水温が13度と冷たく、毎年4月の山開きをスタートに年間30～40万人の観光客が訪れる観光スポットである。この菊池溪谷は、その森林の幽玄なイメージが高く評価され、NHK大河ファンタジードラマ「精霊の守り人」のロケ地として選ばれた。

菊池市の歴史は、有史以前に人が住んでいた遺跡をはじめ、古墳や古代の軍事拠点「鞠智城」の跡、律令時代の条里遺構、郡家跡などが存在しており、熊本県北部の中心地だったと考えられている。中世の400年以上の間、肥後の守護大名である菊池氏が治め、肥後国の中心として栄え、文教も盛んであった。近世以降は、加藤清正公（1562-1611）や地元有力者が築いた井手などにより農業が発展し、隈府地区は物産集散地・商業地として近隣の中心地となっている。昭和29年に市内中心部近くで温泉が湧出してから温泉街としても栄えており、観光業は菊池市の主要な産業の一つとなっている。

営農の特徴としては、菊池川の清らかな水で育った菊池米や内陸性気候による大きな寒暖差を利用したメロン、イチゴ、アスパラガスなどがあり、中でも地域特産品の水田ゴボウは人気が高い。また、花き作物としてカスミソウなどが代表的な農産物となっている。更に、菊池地方は江戸時代より米どころとして有名であり、全国の名産米を集める料理新聞社主催の米の食味会において1996年、1998年と2度に渡り全国1位に輝いている。

また、財団法人日本穀物検定協会主催の食味ランキングにおいても「熊本 城北」産のヒノヒカリがこの品種としては全国で初めて2001年度に（その後2005年度、2008年度～2015年度にも）最高ランク「特A」を受賞している。

この菊池米の生産を支えているのが、築地井手をはじめ、加藤清正の時代から江戸時代中期に作られた隧道や井手（用水路）、堰など地区内に点在する歴史的な農業水利施設遺産である。水土里ネット菊池では、これらの歴史的な農業遺産を維持管理し後世に引き継ぐことも重要な責務と考えている。

Ⅱ 運動の背景と基本理念・目標

1. 運動の背景

本水土里ネットの管内には、加藤^{かとうきよまさ}清正が築いたとの言い伝えがある築地井手^{ついで}や赤星^{あかほし}堰^{ぜき}をはじめとする歴史的な農業水利施設遺産がある。これらを擁する地域は、そのほとんどが菊池市北東部の中山間地域に位置しており、高齢化と少子化に伴う人口減少に加えて、地域のシンボルであり精神的な支柱である小学校の統廃合により、地域のまとまりや活力が低下し、継承すべき伝統文化や地域の歴史が失われつつあることに住民は危機感を抱いていた。

そこで、21 創造運動を通じて地域の活性化の一助になること、並びに、次世代を担う子どもたちや組合員、地域の方々にこの貴重な財産を広く知ってもらい後世へ継承することやその重要性を認識してもらうことを目的として 21 創造運動に取り組み、現在に至っている。

2. 運動の基本理念・目標

上述したように地域の伝統文化や歴史が失われつつあることが危機感となっており、それが 21 創造運動の原動力となっている。

そこで『菊池の貴重な宝を次世代へ！』をスローガンに、地域の子どもたちを中心として歴史的な水路や隧道を探索する『隧道探索』や用水路をゴムボートやカヌーで下る『イデ（井手）ベンチャー』、先人たちの苦労に思いをはせながら歴史的農業水利施設を散策する『歴史散策』などを行い、子供たちに地域の貴重な財産である歴史的な農業水利施設を知りその役割を理解してもらうようにしている。

そのほか、農業にとって必要不可欠である水や農業用施設の重要性を理解してもらうために、子どもたちを中心に『生き物調査』、『水質調査』、『ホタルいっぱいプロジェクト』を実施している。また、組合員や地域の方々には、水土里ネットの下部組織である管理委員会（水利組合）が主体となり田植え前に稲の豊穰を願って執り行う『穀雨祭』の神事や田植え後の『さなぶり』に参加してもらうことで、組合員や地域の人々に水土里ネットが農業用施設や水田を守り、維持管理していくことを理解してもらうようにしている。

このようにして、子どもたちや地域の方々にそれらの貴重な財産を守り次の世代へ継承すること、並びにそれらの財産を有効に活用し水土里ネットのPRに活かすことを目標に 21 創造運動に取り組んでいる。

Ⅲ 対象となる 21 創造運動の活動

■ No.1 活動名 歴史的な農業水利施設遺産の啓発活動

①開始時期：昭和 50 年代より

②開催数：5～10 回／年

③実施形態：☒主催 ☐共催 ☒協力 ☐その他（ ）

④連携団体：団体名 ^{おおぼぜき}大場堰管理委員会、^{はるい}原井手管理委員会、^{あかほしぜき}赤星堰管理委員会、^{ほうえいずいどう}宝永隧道管理委員会、きくち井手あそび実行委員会、きくちふるさと水源交流館

⑤活動経費： 一 千円

⑥活動内容

本地域には地域の特徴で記載したとおり加藤^{かとうきよまさ}清正公が築いたとの言い伝えがある築地^{ついで}井手や赤星堰^{あかしほしぜき}、江戸時代の庄屋が私財を投じて築いた原井手^{はるいで}など歴史的な農業水利施設遺産が数多く存在する。

これらの井手や堰には、それぞれ土地改良区の下部組織である管理委員会（水利組合）があり、その管理委員会が主体となって農業用水利施設を構築した先人の功績を顕彰し広く後世に伝えるため、前述の『穀雨祭』の神事や『さなぶり』の祭りを行い、また地元の子どもたちを対象に『隧道探索』や『歴史散策』を実施している。

また、築地井手には人柱伝説が残っており、それを地元小学校の校長先生がまとめられている。『歴史散策』の勉強会においてはこの教材を用いている。

そのほか、平成26年度からは、毎年夏休みの期間に地元NPO法人が主体となって子どもたちが歴史的な農業用水利施設である用水路や隧道をカヌーやゴムボートで下る『イデ（井手）ベンチャー』というイベントを行っており、地元ばかりでなく熊本市など遠方からも多くの子供たちが参加している。

⑦取り組みの工夫

まず子どもたちには、地域の歴史的な事柄をよく理解してもらうため、人柱伝説などを昔話風にアレンジして子どもたちが興味を引きそうなエピソードを交えながら水路の歴史や役割について説明している。その際、それを維持管理する「水土里ネット」についての説明を行うことで参加者が理解しやすいように工夫している。

⑧取り組みの成果

『穀雨祭』や『さなぶり』はもちろんのこと『隧道探索』や『歴史散策』についても、21創造運動が開始される前から実施されており、地域の歴史についてはある程度子どもたちや地域住民に理解してもらっていたが、これに21創造運動が加わり、水土里ネットの役割について説明を加えることで子どもたちが水土里ネットについてより深く認識・理解されてきた。

また、『イデ（井手）ベンチャー』は毎年多くの子供たちが参加していることから、水土里ネットや歴史的な農業水利施設遺産が以前にも増して認識されてきた。

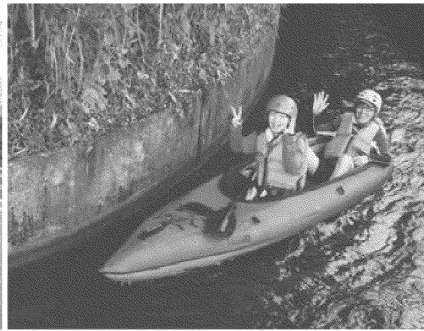
⑨マスコミ等への掲載について

毎年県内のテレビニュースや新聞で取り上げられている。

⑩参加状況（延べ数）

年度	参加者数						参画団体数	参加者 数計
	水土里ネット			一般		スタッフ数 (内数)	行政 土連等	
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
25		1	3	12	13	5		29
26		1	3	約212	40	45		約256
27		1	3	約1,112	40	45		約1,156

⑪活動状況写真



〔宝永隧道記念碑の前で地元の人に説明を受ける児童たち〕〔イデ（井手）ベンチャーの様子〕〔イデベンチャーが記載された新聞記事（毎日新聞熊本版H27.7.22）〕

■No2 活動名 農業用の水源を守るための活動

①開始時期：平成20年度～ ②開催数：5-12回／年

③実施形態：☒主催 ☐共催 ☒協力 ☐その他（ ）

④連携団体：団体名 菊池森林組合、熊本県環境センター、高柳ほたるを育てる会

⑤活動経費：2,000千円 内訳 補助金2,000千円（事業名：農業用水水源地域保全対策事業）

⑥活動内容

平成20年度から始まった農業用水水源地域保全対策事業を契機に、子どもたちに水土里ネット菊池管内のほとんどの農地に農業用水を供給する菊池川の水と環境を守り大切にする心を育みその意識をさらに向上させるため、菊池市内の小学生の子どもたちを対象として菊池川の水源近くで森林の保水力を高める落葉樹であるヤマザクラ・モミジなどを植える「植林活動」や菊池川の水質を維持することの大切さを学習するための「水質調査」、「水の生き物調査」を実施している。

また、平成27年度からは市の中心部近郊にある戸崎^{とどき}小学校において土地改良区が管理する用水路をホタルの名所にして近隣から多くの見物客を呼び込む「とどきホタルいっぱいプロジェクト」を実施しており、子どもたちは用水路にホタルの幼虫を放流し、カワニナなどのエサを与えて飼育するという活動を行っている。

そのほか、森林や農業用水の役割や重要性について啓発するための看板を本水土里ネットが管理する幹線用水路際の用地や菊池市内の小学校敷地などに3面設置し、啓発に努めている。

⑦取り組みの工夫

活動を行う小学校と事前に緊密な連絡調整をおこない、小学校の総合学習の時間を活用して植林活動や水質調査などを実施している。また、これらの活動を行う際は、森林が菊池川の水源を涵養し、それが農業に役立っていることを説明し、子供たちに森林や水の大切さを理解してもらうようにしている。さらに活動終了後は、参加した子供たちに活動についての絵日記を書いてもらい、子供たちに活動の記憶が長く残るようにしている。また、後日検証を行い次の活動に反映している。

⑧取り組みの成果

「ホタルいっぱいプロジェクト」は、その活動内容が高く評価され、環境省主催の「子どもホタレンジャー」に選ばれ、発表内容が全国で2位となる成果を上げている。

⑨マスコミ等への掲載について

「ホタルいっぱいプロジェクト」は菊池市の広報誌である「広報きくち」に掲載。

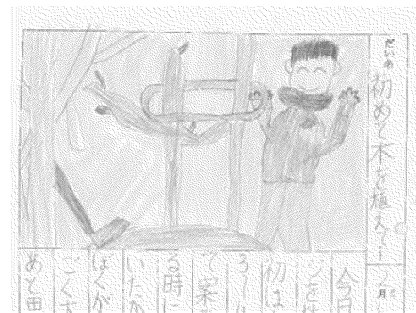
⑩参加状況（延べ数）

年度	参加者数						参画団体数	参加者 数計
	水土里ネット			一般		スタッフ数 (内数)	行政 土連等	
	役員	職員	組合員	小中高生	その他			
25		1	2	321	14	17		338
26		1	2	181	15	17		199
27		13	2	300	60	72		375

⑪活動状況写真



生き物調査の様子



植樹活動の感想文と絵

Ⅳ 多面的機能支払、中山間地域等直接支払への関わり

- ①実施地区数 78 カ所 ②実施面積 1,487ha
- ③活動組織の構成 自治会、老人会、婦人会、子供会、消防団
- ④活動内容 水路沿いの草刈り、泥上げ、植栽、水路の維持管理が主な活動である。
- ⑤水土里ネットの関わり

旧菊池市の多面的機能支払の事務局を本水土里ネットが担っている。また、本水土里ネットの理事長が菊池市長、副理事長が多面的機能支払の会長を兼務しており、そのような面で本水土里ネットは多面的機能支払の活動に深く関与している。さらに、多面的機能支払の活動を側面から支援するだけでなく、水土里ネットの職員も多面的機能支払の活動に積極的に参加している。

⑥21 創造運動への波及効果

多面的機能支払の事務局を土地改良区が担い、多面的機能支払活動に積極的に関わっていることで、地域の農家だけでなく非農家、子供からお年寄りまで水土里ネットの存在や21 創造運動の取り組みを知っていただける良い機会となっている。また、総代や組員に対しても水土里ネットの一員であることの意識を促し、内部意識の向上を図る良い機会となっている。

Ⅴ 運動全体の成果と今後の展望

「歴史的な農業水利施設遺産の啓発活動」を通じて子どもたちや組員だけでなく地域の住民にも水土里ネットの名称と役割が徐々に浸透してきていると感じている。また「農業用の水源を守るための活動」については、戸崎小の「ホタルいっぱいプロジェクト」が高い評価を得るなど一定の成果が上がっている。